



学校便り

TEL 045-783-9398

FAX 045-701-9817

令和4年9月30日

ひがしの願い

ひとつの命

がんばる心

しんじあう仲間

幼虫から“さなぎ”へ

校長 梅田 研一

「暑さ寒さも彼岸まで」とはよく言ったもので、猛暑続きの今年でもこのところの朝夕は秋の深まりが一段と強く感じられるようになりました。夏休みが明け、子どもたちの思いが詰まった自由研究を時間をかけて拝見させていただきました。わざわざ「見に来てください」と話しかけてくれる子もいました。またおうちの方も一緒になって取り組んだであろうクオリティーの高い調べ学習等、同じ親として頭が下がるようなものも数多くありました（以前我が家では私が声をかけすぎたことでやる気を削いでしまったことがありました）。一緒になって取り組んだおうちの方は、きっと普段とはちがうわが子の成長に目を細めたことでしょう。

さてここで突然ですがなぞなぞです。「体はカマキリ、心はチョウ、さてこれな〜んだ？」まるで「朝は四本足、昼は二本足、夜は三本足、これな〜んだ？」で有名なスフィンクスのなぞなぞのようですね。この答えは“人間”であることは皆さんご承知かもしれません。実は先のなぞなぞは私が作ったもので、その答えも同じく“人間”なんです。

その心は？という、今から10年程前になります。理科研究会主催の夏季研修会の折、お呼びした講師の話の中で、チョウなどのさなぎの中がどうなっているかという話題になった時の話です。実際に中を見たことはなかったので（命を犠牲にすることにもなるので）、改めて投げかけられると確かにどうやって変化しているのだろうと思いました。答えは「さなぎの中で一度ドロドロの液体になり、そこから成虫の体が作られる」ということでした。遺伝子によってちゃんと成虫の体になるようにプログラムされているのでしょう。その話をうかがってしばらくの後、ふと「人間も同じじゃないか・・・」と思ったのです。子どもたちは“幼虫”の間、親や教師の教えを忠実に守りながら生活しています。しかしある程度成長するとそれまでの価値観を自ら“壊して”いくようになり、そこから自分なりの価値観を作り上げていきます。体は親とそっくり（不完全変態）ですが、心はチョウのように（完全変態）1個の独立した人格に成長する・・・。そんなことを思いました。

実は前述の夏季研修会を行った会場が、奇しくもこの釜利谷東小学校でした。何かの縁を感じずにはられません。10月には前期の締めくくりとして「あゆみ」をお渡しします。保護者の中には、日頃のお子さんの言動・行動が頭にくる場面もあるかもしれません。しかし子どもたちは、少しずつ親や教師の価値観を再構成している過程かもしれません。そんな子どもへの見取りを共有できたらと思っています。